

あゆみ通信

VOL. 169

あゆみの会(真宗大谷派大阪教区第2組同朋の会推進員連絡協議会) 会長 細川 克彦 広報 本持 喜康

本願成就

(前略)では、浄土真宗とは何か。これについて大谷派の学僧の曾我量深先生(1875-1971)は「浄土真宗の眼目は、本願成就である」と教えていただきました。

ここに言う「本願」とは、阿弥陀如来の本願であり、「成就」とは実現とか完成とか言う意味です。人間に生まれ、人間として生きることの完成一人間成就は、本願成就のほかにはありません。このことを明らかにしてくださったのが、親鸞聖人です。

冒頭で、真宗の教えが五つの問題(人間・本願・念仏・信心・生活)をもって明らかにされてきたと申しました。それらは皆大切な問題であって、そこに軽重がある訳ではありませんが、その根本は、本願成就です。この一点を抑えてみれば、人間も、本願も、念仏も、信心も、生活も、あるいは浄土も、それらは立体的にダイナミックにかかわりあってはたらく、人間成就の内実とであると知らされます。

(中略)この願い(人間を救い遂げる)を実現するために如来は思惟(思案)の限りを尽くして人生の帰依処(生の依るところ・死して帰る処・すなわち浄土)を建設してくださいました。そしてその浄土の道として選び取られたのが南無阿弥陀仏です。(中略)如来の力を人間に賜る、これが本願力(すなわち他力)の回向です。

したがって一言で言えば本願成就、くわしくは如来の本願力の回向成就、これが浄土真宗です。

(伊藤慧明「望郷の問い〜永遠の人親鸞」東本願寺出版より)

第2組開法会「共に学ぶ正信偈」

日時 5月23日(火) 14:00
会場 専行寺(天王寺区堂ヶ芝)
講師 新田修巳先生

(4組 正業寺)
内容「正信偈」から学びます
参加費 500円
次回 6月16日(金) 宗恩寺で

宗祖親鸞聖人御生誕850年・立教開宗800年慶讃法要 第2組団体参拝実施



宗祖親鸞聖人御生誕850年・立教開宗800年慶讃法要参拝 2023年3月28日 東本願寺(真宗本廟)

3月28日(火) 午前8時前に集合した第2組の住職、寺族、門徒、推進員80名は、天王寺でんしばから、バス3台に分乗して京都に向かいました。天候に恵まれ、高速を走り、賀茂川の満開の桜を見つつ、最初の目的地、京都国立博物館へ。

交通事情もあり、到着時間が大幅に遅れましたが何とか親鸞展を見学。駆け足でしたが国宝の坂東本や親鸞聖人像などの展示を見ました。その後しんらん交流館に到着。ホールで早いランチをいただきました。そして、三々五々真宗



本廟に向かい、境内を散策。50年に一度の宗祖親鸞聖人御生誕850年・立教開宗800年慶讃法要に、午後1時30分から御影堂での法要に厳粛な気持ちで

親鸞のことば

生かされて生きる

しかるに愚劣釈の鸞、建仁卒の酉の昏、雑行を棄てて本願に帰す「教行信証」

人に頼らず、自分の力だけで生きると言うのは潔く、またかっこよく感じられます。しかし、そのようなことは、自分勝手な思い込みなのです。両親や恩師、先輩や友人など、私たちはさまざまな他者に支えられ、多くの影響を受けているからです。この言葉は、師法然を通して本願に出会い、その本願に支えられて生きていくことを決意した親鸞の気持ちが示されています。

自分の力だけで生きていけると錯覚し、与えられたご縁を当たり前のものとして見過ごしてしまう。親鸞はその愚かさ気付いた人なのです。

(名古屋別院監修「人生を照らす親鸞の言葉」より)

コロナ陽性になりました

政府がコロナ終息傾向で、5月連休明けに2類から5類に下げ、マスクも外して、各自の判断にする頃に、コロナに感染しました。それも、ワクチン接種を勧められて、夫婦で真面目に5回目を終わり、ついでにインフルエンザワクチンも済ましたと言うのに。

4/8(土) 久しぶりに教区主催の全推進員の集いに参加しました。当日は寒冷前線の影響で結構冷えて、本堂内でも、寒いなあとお仲間と話しておりました。

翌日曜日、喉が痛くなり、月曜から火曜朝にかけて咳が止まらず、熱を計ると37.2℃。予約していたりハビリの変更を医者に連絡したら、発熱外来へと言われ、PCR検査で、きっちり陽性。7日間の自宅隔離となりました。人様のことは聞いていましたが、やはり、我が身になるとオタオタでしたが。濃厚接触者の嫁のサポートで何とか回復。感謝です。軽症で済んだのは、ワクチンのお陰。因縁力を感じました。相変わらず、ご心配をおかけしました。合掌。(本)

参列しました。お勤め、感話、法話をいただきました。



久しぶりに御影堂で高らかに正信偈を全員で称えることが出来ました。終了後、各自自由行動。門前のイベントや渉成園散策等をして、再度バスで天王寺に午後6時過ぎに到着、解散となりました。第2組での何年振りかのバスツアーでした。

全推進員の集い 4年ぶりの開催に

4月8日(土) 午後1時30分から、大阪教区主催、全推進員の集いが、コロナ下から4年ぶりに難波別院本堂で開催され、教区内の寺院から住職や寺族と推進員185人が。また、第2組のあゆみの会から推進員が10名参加されました。田口富雄氏(22組永覺寺)の司会で開会、真宗宗歌、同朋奉讃式での勤行。開会挨拶を大阪教区所長禿信敬教化委員長が。引き続き教区内4名による意見発表がありました。休憩後玉光順正先生(山陽教区光明寺前住職、元教学研究所以長)から「親鸞、蓮如、教如そして・・・」という講題でお話されました。親鸞聖人のご生涯を紹介しながら、宗祖親鸞聖人、中興の祖蓮如上人、そして東本願寺開設の教如上人について、政治と宗教について強調されお話をいただきました。

そして、閉会挨拶を北山義昭氏(20組頓随寺)からあり、午後4時20分終了しました。

大推協通信

公開講座のお知らせ

あゆみの会が参加する大推協(大阪教区同朋の会推進員連絡協議会=会長細川克彦〈佛足寺〉)では、共に聞法をスローガンに公開講座が開催されています。今回は、講師にお馴染みの第2組即應寺の藤井真隆住職を講師にお招きして下記の通り開催されます。ご

都合のつかれる方のご参加をお待ちしています。

記

日時 6月6日(火) 14:00
会場 難波別院同朋会館講堂
講題 南無阿弥陀仏一人と生まれたことの意味をたずねていこう

講師

藤井真隆先生
(第2組 即應寺住職)

参加費 無料



紙上法話

和国の教主① 親鸞聖人における聖徳太子観 池田勇諦先生



①清澤満之師の「絶対他力の大道」の意訳をされた故林暁宇先生をご縁として、暁宇会(東京都港区了善寺)から、池田勇諦先生の表題の冊子

を手にしたので、要約ですがこれから皆さんと共に学んでいきたいと思います。

なお、先生のお話は2015年10月17~18日に稱佛寺鍋谷道場で暁宇会主催「秋の法座」でのお話です。事務局

(前略)「親鸞聖人における聖徳太子観」と一言で申しましても、これは大変な問題でありまして、詳しく申し上げますと時間がどれほどあっても足りないような大きなテーマでございます。ご承知のように、親鸞聖人は聖徳太子のご恩徳を深く仰いでおられました。実は日本仏教の歴史の中で、親鸞聖人ほど沢山の聖徳太子和讃を作られた方は他にいません。日頃親しんでいるところでは、『正像末和讃』に収められている「皇太子聖徳奉讃」(聖典507P)が11首あります。この11首の和讃は、親鸞聖人の最晩年となる86歳以降の撰述とされています。それに先立って制作された75首和讃「皇太子聖徳奉讃」(名畑應順校註「親鸞和讃集」岩波書店219P)は、親鸞聖人83歳の時のご制作です。11首、75首、114首を合計しますと、200

首と言う膨大な数字になるのですね。

親鸞聖人は、『浄土和讃』、『高僧和讃』、『正像末和讃』の三帖の和讃をご制作ですが、三帖の和讃の合計は353首です。それだけたくさんの和讃を遺され、さらに太子和讃が200首ありますから、親鸞聖人と言うお方は、500首を超える和讃を遺されたのでした。とりわけ聖徳太子のご讃嘆として200首の和讃を作って捧げておられることから、親鸞聖人の聖徳太子に対する深い思い入れがうかがわれます。

200首に上る太子和讃の中で『正像末和讃』に収められている11首は、日頃から繰り返し読みしてお勤めされていると思います。この11首は「真宗大谷派勸行集(赤本)」にも収められていますから、皆さん方も親しんでおられましょう。この11首和讃を通読いたしますと、そこに親鸞聖人の聖徳太子に対する恩徳の要点を2点指摘できようかと思えます。

「父のごとく」
「母のごとく」

その一つは、聖徳太子を「父のごとくに」「母のごとくに」(「皇太子聖徳奉讃」〈聖



典508P)と仰いでおられることです。同様の表現が11首和讃の中に繰り返し見られます。その一つには「多多のごとくにそいたまい、阿摩のごとくにおわします」(聖典507P)この「多多」とか「阿摩」というのは、古代インドの言葉、いわゆる梵語(サンスクリット語)です。父親のことを「ターター」、母親のことを「アンマー」と言うのです。英語で言い換えれば「ターター」は「パパ」、「アンマー」は「ママ」ですね。ですから英語で言えば、聖徳太子のことを「パパのごとく」「ママのごとく」と仰かれるほどに敬い慕っておられたことが知られますね。親鸞聖人が聖徳太子に対して、それほどのご恩徳を感じられていたのは何故かと言うことは、よくよくうかがわなければならない大切なテーマだとおもっております。(つづく)